

## 電子カルテによる肝炎ウイルス検査陽性者受診勧奨システム導入の効果

研究分担者 坂口孝作 福山市民病院院長

研究要旨：受診勧奨システムを導入し、肝臓内科以外の診療科での肝炎ウイルス検査陽性者の肝臓内科受診率はわずかに向上した。あらたなB型、C型肝炎患者の治療を導入することも可能であった。

### A. 研究目的

肝臓内科以外の診療科での肝炎ウイルス検査陽性者が精査・治療目的に肝臓内科に紹介されないこともある。肝臓内科受診率向上を目的に受診勧奨システムを導入し、その効果について検討した。

### B. 研究方法

受診勧奨システムは2015年9月1日から開始した。導入前の2013年4月1日から2014年3月31日までにHBs抗原測定者8,961人、HCV抗体測定者8,459人、および導入後の2016年4月1日から11月23日までのHBs抗原測定者6,736人、HCV抗体測定者5,945人を対象として、肝炎ウイルス検査陽性者の肝臓内科への受診率を比較検討した。

（倫理面への配慮）  
調査データの集積は匿名化のうえで実施した。発表については福山市民病院倫理委員会の承認を得た。

### C. 研究結果

受診勧奨システム導入前、肝臓内科以外の診療科でのHBs抗原陽性者191人のうち肝臓内科受診者は66人(34.6%)であった。導入後HBs抗原陽性者125人のうち肝臓内科受診者は59(44.0%)であった。肝臓内科受診者のうち治療を継続・治療を導入した患者は17人(28.9%)、42人(71.2%)は経過観察となった。受診勧奨システム導入前、肝臓内科以外の診療科でのHCV抗体陽性者295人のうち肝臓内科受診者は85人(28.8%)であった。導入後HCV抗体陽性者は198人のうち肝臓内科受診者は63人(31.8%)であった。このうち治療を導入した患者は10人(15.9%)、53人(84.1%)はHCV-RNA陰性、他部位癌などの理由により経過観察となった。

### D. 考察

受診勧奨システムを導入後も肝臓内科受診率は上昇したが、なお50%以下である。その理由は肝炎ウイルス感染に対する認識不足、紹介手続きが煩雑であることが指摘されている。今後、肝臓内科受診手続きの簡便化、さらに地域の医療機関受診者での肝炎ウイルス検査の実施と陽性者の肝臓専門医への受診を促進するための広報が必要である。

### E. 結論

受診勧奨システムの導入により肝臓内科以外の診療科での肝炎ウイルス検査陽性者の肝臓内科受診率を向上することは可能である。

### G. 研究発表

1. 論文発表：  
眞鍋明、坂口孝作、他：肝臓内科以外の診療科でのHBs抗原、HCV抗体陽性症の肝疾患診療状況 広島医学 69;538-542,2016
2. 学会発表：なし

### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし